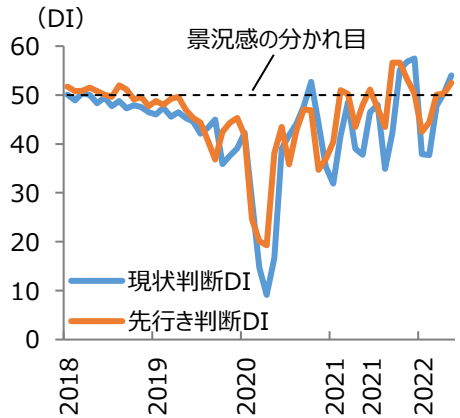
日本

景気ウォッチャー調査（2022年5月）

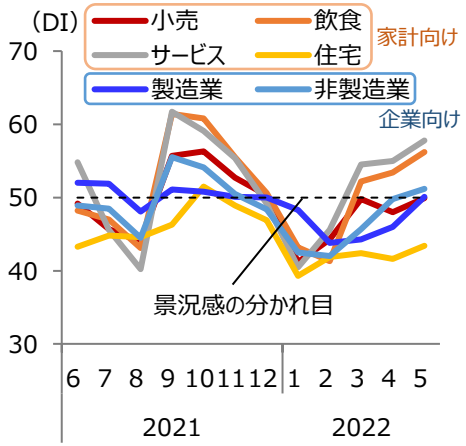
街角の景況感は緩やかに改善も、物価高への不安が広がる

政策・経済センター
菊池紘平
03-6858-2717

1 現状判断DIと先行き判断DI

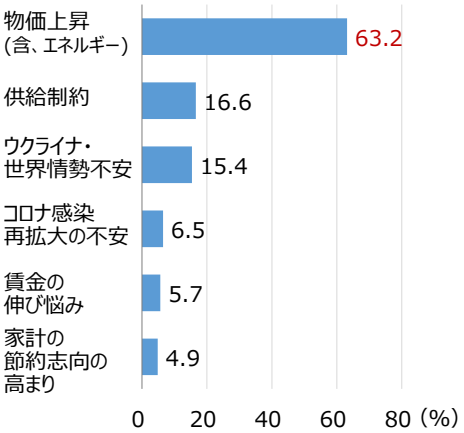


2 先行き判断DIの内訳

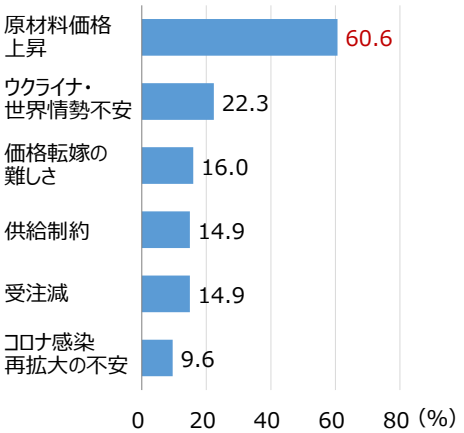


注：DIは、５段階の回答区分に点数を与え（良い：+1、やや良い:+0.75、変わらない:+0.5、やや悪い:+0.25、悪い:0）、各回答区分の構成比に乗じたうえで合計したもの。
出所：内閣府「景気ウォッチャー調査」より三菱総合研究所作成

3 先行き判断を「やや悪い」、「悪い」とした主な理由（家計動向関連）



4 先行き判断を「やや悪い」、「悪い」とした主な理由（企業動向関連）



注：景気判断理由集に「やや悪い」、「悪い」と判断した理由として掲載された全コメントのうち、図表中の各要因に言及しているコメントの比率を示したもの。２つ以上の理由に言及したコメントは複数カウントしている。なお、「供給制約」には、中国の都市封鎖や半導体不足への言及も含まれる。
出所：内閣府「景気ウォッチャー調査」より三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 22年5月の景気ウォッチャー調査では、家計の外出自粛ムードが弱まるなかで飲食業やサービス業の業況が改善したこと等を背景に、現状判断DIが54ポイントにまで上昇。景況感の分かれ目である50を２ヵ月連続で上回った（図表１）。
- 今後２～３ヵ月先についての見方を示す先行き判断DIについても、52.5ポイントと、４ヵ月連続で上昇した。総じてみれば、新型コロナの感染状況による振れを伴いつつも、改善傾向が続いている。
- 先行き判断DIの内訳をみると、全ての項目が前月比で改善。企業向けでは製造業・非製造業ともに50を上回った。家計向けについては、飲食業とサービス業が好調を示している一方、住宅関連は、資材価格の高騰や人手不足を背景に低水準での推移が続いている（図表２）。

基調判断と今後の流れ

- 景況感は、家計の外出再開が本格化するなか、緩やかに持ち直している。
- 先行きについても、家計が過剰貯蓄を取り崩して外食や旅行等への支出を増やす「リベンジ消費」の広がりが期待されるなか、緩やかな改善が続くとみられる。
- もっとも、先行き判断の理由を確認すると、今後の物価・原材料価格の上昇に対する不安が多くみられる。先行きを「やや悪くなる」、「悪くなる」と判断した理由として公表されたコメントの約６割が、円安や資源価格の高騰に伴う物価上昇に言及している（図表３、４）。
- このほかの理由をみると、コロナ感染再拡大に対する不安が落ち着きつつある一方、供給面の制約や、ウクライナ情勢の混迷による家計・企業のマインド悪化、といった、不確実性の高い要素が景気見通しを押し下げている模様。
- 今月入り後に円安が一層進行していることも踏まえると、輸入財の更なる価格上昇が消費や企業設備投資の冷え込みに繋がる恐れもあるため、景気の先行きについては予断を許さない状況が続く。

Copyright (C) Mitsubishi Research Institute, Inc.